

### 図画工作科事例3 指導と評価の一体化を意識した「鑑賞」の実践事例

## 題材名 「○○がいっしょ」はど～れだ？

第3学年 B鑑賞(1)ア, 共通事項(1)アイ

#### 1 題材の目標

共通点に着目したクイズ作りを通して、身近にある美術作品を自分らしい見方や感じ方で味わおうとするとともに、クイズを互いに出し合うことで、様々な見方や感じ方があることを知り、美術作品のよさや面白さを感じ取る。



#### 2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。  ※本題材では表現の活動がないため、「技能」に当たる評価規準は設定していない。	・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、アートカードを鑑賞する活動を通して、造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・クイズを作ったり、友だちのクイズを解いたりしながら、進んで鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

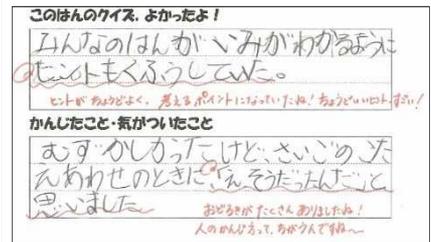
#### 3 題材について

児童が主体的に美術作品と向き合い、自分なりの見方や感じ方を広げることが出来るように、アートカードを活用した鑑賞の題材を設定した。授業では、作品をよく見て「形」「色」「感じ」といった図画工作科の〔共通事項〕に着目させていく。そのための具体的な手立てとして、2点のアートカードの共通点からクイズを考えるという課題を与え、児童が自由に感じたり考えたりすることができる授業づくりを行う。クイズを考えたり、クイズに答えたりする活動を通して、作品のよさや面白さを感じ取ったり、作品の見方や感じ方を広げたりしてほしい。

#### 4 指導と評価の計画

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価
導入 15分	1 アートカードにふれる。 ・提示されたアートカードをよく見て、そこから感じられるものを、形や色に着目して話し合う。 「季節はいつだろう？」 「どんな音がきこえてくるかな？」 2 本時のめあてと活動について知る。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">「いっしょ」を見つけて、クイズをつくろう!</div>	・鑑賞の視点を与えることで、作品の細かい部分まで見つめることができるようにする。 ・感じ方は人それぞれ異なるということを全体で確認する。 ・カードの扱い方について全体で確認する。 【主体的に学習に取り組む態度】

展開 前段 30分	3 課題作品を選び、その作品の「クイズ」と「ヒント」を作る。 ・班に配られたアートカードの中から、共通点がある作品を2点選び、その共通点についてのクイズを作る。 「〇〇がいっしょなのはど〜れだ？」	・クイズが難しすぎたり、簡単すぎたりしないように、声かけをする。 【知識】【思考・判断・表現】
展開 後段 30分	4 クイズカードを見て、解答用紙に答える。 ・各班のクイズカードを見て、どの作品について書かれているのか予想して、解答用紙に答える。 ・最後に全員で答え合わせをする。	・答え合わせの時に、答えとは違う共通点を見つけることができた児童に発表してもらい、様々な見方があることを確認する。 【知識】【思考・判断・表現】
終末	5 学習感想を書いて発表する。	



## 5 指導と評価の一体化に向けて（授業改善のポイント）

観点別学習状況の評価については、授業に取り組む様子やワークシートの記述などから評価を行った。本題材では、事前に評価の視点を確認しておいたことで、授業中に適切な評価をすることができた。「記録に残す評価」だけでなく、声かけなどの「指導に生かす評価」を充実させるためにも、指導案の作成は重要だと感じた。ワークシートの項目も、学習内容を記録するだけでなく、育成された資質・能力が見えるような記述になるように、設問を工夫していく必要がある。

「〇〇がどこがいっしょ、ど〜れだ？」 ぼん クイズカード	
問題	音いにおいかわらな はど〜れだ？
作品のヒント	りーはうともお花が な。
答え	1番と5番 理由は、おいしいためのおひやきで ★

「〇〇がどこがいっしょ、ど〜れだ？」 かいどう用紙		
ぼん	いっしょなところ	番号
1	あまにおいかわらな はど〜れだ？	6と4
2		と
3	ききやがなぬい はど〜れだ？	5と3
4	色がにているのはど〜れだ？	6と7
5	お花がなのはど〜れだ？	5と4
6	まのなところがいっしょ はど〜れだ？	9と7
このぼんのクイズ、よかったよ！ 3ぼんのクイズがよかったと思った 答えを尋ねてくれたらみんなが あまらぬ。お花はみんなが かんじたこと・気がついたこと ぼんといっしょなところはど〜れだ？		

## 6 まとめ

児童に感じてほしかったのは「人によって作品の見方や感じ方は異なる」ということ、また「色々な見方や感じ方があった方が面白い」ということであった。そのため、導入の段階で鑑賞の視点として「形」「色」だけではなく、「におい」「音」「季節」「さわった感じ」「温度」などの五感を使った「感じ」を児童に示した。クイズを作る過程や解く過程で色々な感じ方に触れることができ、児童が「一つの正解」に固執することなく活動できていた。「友だちとは違う、自分なりの見方ができてうれしい！」という経験ができた児童が多かったように思う。

